

葛飾区史編さんだより

261007

Vol.3

総務部 総務課 区史編さん担当係 03-5654-8444
郷土と天文の博物館 03-3838-1101

葛飾区



平成 26 年 7 月 21 日(月)午後 2 時から、水元地区センターにて「昭和の葛飾を伺う会」が開催されました。多くの方にご参加いただき、水元にまつわる様々なお話を伺うことができました。



水元公園の整備計画

現在の水元公園用地は、昭和 5 年(1930)都市計画法に基づき指定された江戸川風致地区内に組み入れられ、東京周縁の計画緑地に指定されました。

昭和 15 年(1940)には、「水元緑地」として公園化計画が始まりました。現在の東水元を中心とする小合上町、小合町仲町、下手の人たちの畑作地が水元公園用地にかかり、買収の対象となりました。



ここは古利根川の堆積作用による沖積地で、肥沃で生産力の高い畑作地でした。上町などの人たちはここで東京近郊随一の品質といわれた山東菜やコカブ、ネギなどを生産し、神田・築地・千住などの青果市場に競って出荷していました。

太平洋戦争下においては公園計画は進まず、買収された農地はそのまま小作地として耕作されていました。戦後自作農創設特別措置法の制定を経て、再び昭和 30 年代に公園計画が進展し、畑作地の買収が進みました。

公園計画の進展によって畑作地を失った人たちはそれまで水田だったところを埋め立てて畑作地にしたり、近接する埼玉県下に耕地を求めたりしました。水元公園の整備計画は水元の農家の人たちにとって大きな生活の転換点だったのです。

昭和 40 年代になると宅地化が進み、水田の維持が困難になったこともあって水田の畑作化が進み、小松菜を中心とする野菜栽培が現在も行われています。

宅地化する水元で肉店を始める

戦後、水元の水田地帯を耕地整理し、碁盤の目のような水田が整備されました。しかし東京近郊の宅地開発の波は水元にも押し寄せ、次第に水田の中に宅地が点在するようになりました。結果的には耕地整理は宅地化のために貢献しました。



住宅の建設によって水田に日陰が出来たり、生活雑排水が水田に流れ込んで米の質が落ちたりすることが頻発するようになり、次第に水田よりも宅地が多くなってきました。

南水元四丁目にお住いの藤田幸廣さんは昭和 39 年、それまで代々続けていた農家から食肉販売業に転じました。毎日市場に出荷するために野菜を積んで通る水戸街道沿線に、食肉業者の店があつて「店員募集」の張り紙があつたのを見て飛び込んだのです。

当時、藤田さんがお住いの家の周りには酒屋さんや魚屋さんが出来始めて小さな商店街のようになってきました。それで農家をしながらでもこうした商店を始めようと思い立ち、まだ近所になかった肉屋になることにしたのです。

青戸の食肉販売店は、牛や豚の解体から始める会社で、藤田さんも仕事に入った当初その仕事に携わりましたが、なれない食肉解体の仕事にとまどい、なんどもやめようと思いましたが社長の熱心な指導により、昭和 39 年に肉屋を開業することが出来ました。父から「店をやるなら一年分の米をためておけ」といわれ、最初は農業と兼業でした。朝 4 時に起きて田んぼのしるかきをしてから肉屋の仕事をするという日が続きました。

藤田さんの住む付近は「砂押」と呼ばれるところで、粘土質の多い水元には珍しく砂地の畑で、ネギやかぶなどがよく取れるところでもありました。また、小合溜からくる用水は、藻が多く、透きとおっていて子供たちは泳いだり魚をとることもできました。まだ昭和 30 年代には農村らしい風景も見られるところでしたが、周囲に団地なども出来て肉屋の商売は順調に発展し、何人かの人を使うようにもなりました。

日枝神社の草相撲

水元小合上町の鎮守日枝神社の草相撲は周辺地域にも知られた催しでした。かつては毎年 8 月 1 日に行われていました。

草相撲を取るのは、「八幡講」と呼ばれる相撲の仲間に加わっている人たちで、越谷市、足立区舎人、八潮市、葛飾区新宿などの人が多くいました。

相撲を見物している人たちの多くは小合名物のまくわうりを食べながら観戦したので「瓜皮相撲」などと呼ぶ人がいました。

また、この草相撲には大相撲の力士もやってきました。二所ノ関部屋の力士が来るのが常で、戦後は大関になった人気力士である佐賀の花や琴ヶ浜などもやってきました。

序二段や三段目の力士が八幡講の力士と組み合わせられることもあり、ときおり八幡講の力士が勝つことがありました。するとプロの力士が負けるとはなにごとと竹刀や青竹で厳しく制裁されていたのを見ることもあったそうです。

日枝神社の祭りは年番と呼ばれる役員がいてこの人たちが相撲の世話もしたそうです。お相撲さんにごちそうをしたり風呂に入ってもらうことも役割の一つでしたが、大きな体の人たちが多かったのでそのたびにお湯があふれてしまい、水を汲みに行くことがたいへんな仕事でした。草相撲は昭和 20 年代まで続きました。

現在も 8 月の日曜日に神輿の渡御を中心としたにぎやかな祭りが続けられています。

一本松

昭和 20 年代まで水元のランドマークとして人々に親しまれていたものに「一本松」があります。

水元小学校近くの水田にあったそうです。昭和 32 年に撮影した写真にはまだ写っていますのでそれ以後伐採されたものと考えられます。

また「傳五郎の松」という松が水元公園内にありました。この「傳五郎」というのは上町の旧家の屋号ではないかということが今回の調査で浮上してきました。

